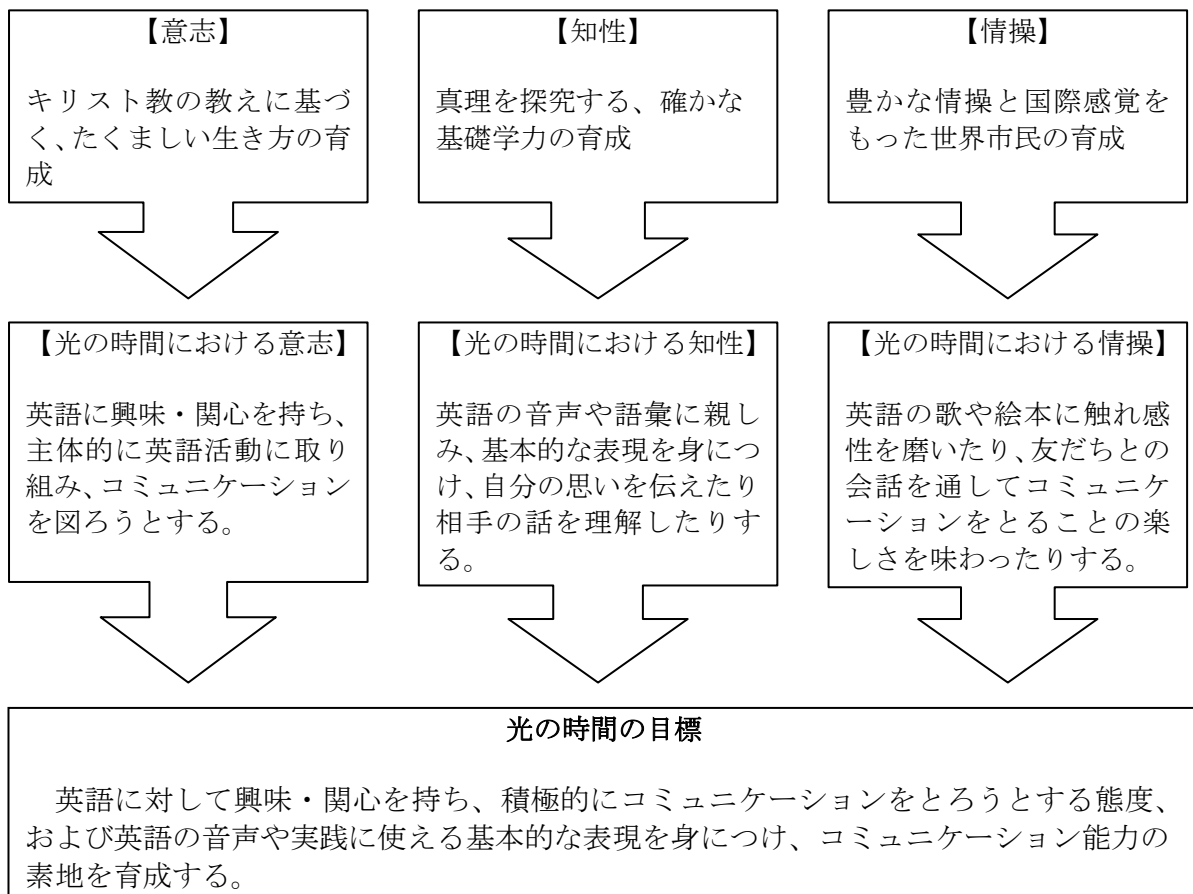


# 「光の時間」について

関西学院の「Mastery for service」(社会と人のために、自らを鍛える)には、異なる文化や考えの人々に敬意を払いながら、世界市民として、また、平和と幸福をつくりだす人間としての真の実力を身につけようという思いが込められています。グローバル化が進展する現代社会において、ことばや文化が異なる人々と交流する機会が増え、意思疎通のために外国語によるコミュニケーションが不可欠となってきています。他者を理解し、自分を表現するためにはコミュニケーション能力の育成が重要であり、異文化を理解するとともに日本の文化を発信する力を育てていくことも大切です。国際共通語としての英語を学ぶ「光の時間」では、英語の基本的なスキルの向上と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度、国際感覚や豊かな感性の育成を目指しています。

## 1. 教育理念との関連



## 2. ことばの教育とコミュニケーション能力

英語学習は国語と同様に言語の教育です。Speaking, Listening, Reading, Writing という活動を用いた体験を通して、英語のことばを理解し、自己を表現することを学びます。英語は児童にとって第一言語ではないため、母国語で行われる他の教科以上に集中して言語活動を行う必要があります。ことばで表現することの重要性を認識しなければなりません。同時に英語によるコミュニケーションでは、一生懸命に伝えよう、わかってもらおうとする積極的な態度、相手の話を

注意して聞く態度、表情やジェスチャーも大切であることを伝えていきます。

さらに、Nice to meet you. という文は人と初めて出会ったときに使う表現であることは知っていても、実際に外国の人と出会うことができるか、How are you? と尋ねられ I'm fine. だけでなく How about you? と切り返し会話を続けることができるか、また、Do you have a pencil? と声をかけられた時に Yes, I do. で終わるのではなく、相手が鉛筆を使いたいのだと気づき、Here you are. と鉛筆を差し出すことができるか、といった気持ちや考えを伝え合う真のコミュニケーション能力を育成したいと考えています。

### 3. 光の時間の活動と計画

光の時間では英語の基本的なスキルの向上と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の育成を目標としています。英語を必要としない日常生活において児童が英語にふれる機会は殆どありません。そのため、授業の中でインプット・アウトプットの時間を多く取り入れるよう心がけています。インプットはできるだけ本物、または、通常使われている会話に近いものを選び、英語特有の音に慣れるようにします。アウトプットも全体練習から個人へと移行するようにし、自然に声に出すことができるよう配慮しています。単調な反復練習も必要ですが、児童が思わず英語を使いたくなるような場面、必然性を感じられる場面を設定し、積極的なコミュニケーションを促す活動を工夫しています。

第二言語である英語を学習することは容易ではありません。一度学習すれば身につくということとは殆どなく、何度も繰り返し同じ表現に出会い、実際に使うことが大切です。学期中に復習 (Review & Check) の週を設け、学習した単語や表現の定着を図ったり、リスニングクイズ等で定着の度合いをチェックしたりします。また、1年から6年までの光の時間の系統を考え、同じ学習項目をシラバス全体を通して繰り返し取り上げ、長期的な効果が期待できるスパイラル状に学習が進められるよう計画を立てています。学習する題材や表現は、自己紹介、買い物、依頼等、日常生活で必要度の高いものを優先していますが、関西学院初等部で行われている国際交流に適した表現等も随時取り入れています。

4 技能、Speaking, Listening, Reading, Writing については、全技能を学年に応じて指導します。低学年は語彙やフォニックスの指導等、音声言語が主ですが、絵カードの文字を意識したり自分の名前をアルファベットで書いたり児童の興味・関心に応じて単語の読み書きも取り入れます。中・高学年でも「聞く」「話す」活動が中心ですが、中学年から短い文を読んだり書いたりするという視覚的な学習も進め、スキットを見ながらの会話練習等、話すことや聞くことを強化します。高学年では、与えられた文を少し変化させたり、いくつかの文を組み合わせたりして、自分で短い文章を書く活動も行います。

関西学院初等部では、4 学年で関西学院大学の留学生との交流、6 年生でカナダ・コミュニケーション・ツアー (CCT) に出かけ、現地でホームステイを体験します。これらの機会を活かして、相手を迎えるマナーや態度を学ぶとともに実践的な会話練習を行い、国際感覚やコミュニケーション能力を身につけます。

### 5. 使用テキスト

- Young Children's Picture Dictionary PEASON Longman
- Children's Picture Dictionary PEASON Longman
- Everyday Verbs Maple Leaf Publishing